

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を謳った理念を作りあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングでは、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。朝礼でも毎朝唱和するようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には訪問時や家族会等、機会があれば理解してもらえるようにしている。老人会会合参加、地域のイベント(秋祭り)や阿波おどり見物にも参加し、理念の浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人たちとあいさつを交わしたり、歓談する機会をもっている。また、隣近所の人たちが立ち寄ったり、遊びに来たり、お裾分けをしたりする間柄になっている。	○	「災害対策」の備えとして近隣地域の方々との関係を深めて参りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会々員となり、定例会や老人会行事に参加しており、認知症の有無に関係なく交流が深まっている。近隣の保育園運動会に参加したり、校区内小学校児童の訪問を受け、交流を深めている。また、ホームで出たダンボールやアルミ缶をリサイクル資源として校区の小学校へ出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営者と管理者は認知症グループホーム協会県支部で年間研修会や事例検討会の立案と開催に直接携わっている。また、地域の社協、民生委員の会で研修会、老人会の集まりで勉強会などを開催している。また、認知症の家族の方の相談にも積極的に応じている。認知症介護実践者研修の実習生の受け入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	十分に時間をかけて、全職員が自己評価を行いサービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は改善に向けて具体案の検討や実践に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席していただいたメンバーには、サービスの実際などを見学していただき、現在ホームが取り組んでいる内容について報告し、課題解決に向けてアドバイスをいただいたり、質の向上のため双方向的な意見交換を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が月2回の頻度で当グループホームを訪問され、入居者との語り、相談、ケアの現場の見学を行っている。年に2回鳴門市介護保険課職員を含めた介護相談員報告会が開かれ、当グループホームの優れた点や改善して欲しい点などについて指摘いただいている。これらを踏まえてさらにサービス向上に向けて取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会ある毎に、書籍やリーフレットなど、関連資料を読み理解を深めるよう努めている。また、法人内の地域包括支援センター職員から説明をうけたりしている。一度以前に、成年後見制度を活用するために支援したことがある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法や身体拘束ゼロの手引きを読んだり、法人内の勉強会に参加したりして、理解浸透の取り組みを行っている。また、職員全体が、身体的虐待、介護、世話の放棄・放任(ネグレクト)心理的虐待、性的虐待、経済的虐待が見過ごされないよう格別に注意し、防止に努めている。高齢者を人生の先輩として敬うという意味を堅持している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>現在6家族に登録していただいている携帯電話やパソコン向けに画像を添付した電子メール活用の普及をさらに進めていきたい。また、面会時にもより気軽に話せる雰囲気を作っていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週土曜日開催している法人内の勉強会で日頃の取り組みを発表したり、他の部署の発表から学びを深めている。また法人外の研修会や講演会に参加し、研修職員の持ち帰る資料や報告書を閲覧している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がGH協県支部委員を担っており、他の事業所職員との連携ができており、意見交換や相互訪問を行っている。また、研修会への参加活動を通じて、同業者同士の豊富な交流機会がある。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスを蓄積しないよう出勤時刻を段階的に遅らせたシフトになるように組んだり、連続勤務をできるだけ少なくするような勤務表を作成している。また、個々の公休希望を受け入れ、連休取得にも抵抗のないよう勤務を組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者や職員個々が業務遂行上に充実感を感じられるよう積極的な取り組み、配慮をしている。また、個々の職員の長所を伸ばすよう頻繁に現場に出て、その努力や成果を把握するように努めている。	○	より積極的に取り組むように配慮していく予定である。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、本人に受け入れられるよう関係作りに努めている。	○	利用初期には不安症状が強い方が多く毎日対話や語らいの時間を作り、本人の思いを受けとめるよう努めて参りたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っていることや不幸なことを本人の意思とは区別して把握し、家族との信頼関係を作ることにつなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの相談を受けた際には、ホームとして可能な限り柔軟な対応を行ない、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限り、入居前には見学の機会を設けたり、スタッフが自宅に出向いたり、本人が納得した上で利用されるよう無理なく安心した生活に移られるよう配慮している。入居後は、関わりの多かった家族の面会をお願いし、馴染みの物を持ってきていただき、ホームにも馴染みやすいよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮してもらい、生活上のことですら本人から学んだりして、感謝するという関係性を築いている。また、本人の思いや心の奥底にある苦しみ、不安、喜びなどを知るように努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合う関係作りに留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人をいっしょに支えるために支援していることをご家族と共に確認しあっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の言動や状態などをご家族にお知らせし、家族への思いをお伝えしている。また、ご家族からの思いを日常的にご本人にお話し両者の思いが一致するようにかかわっている。また、外出で家族と一緒に過ごすことや行事に家族を誘ったりしていっしょに過ごすなど、より良い関係の継続が保てるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所を利用しても、今までの生活の延長線上であるよう知人や友人等に会いに行ったり、訪問してもらう。電話や手紙での連絡を取り持つ等、できるだけ途切れないようつながりを継続する支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮し、利用者が孤立してしまわないように支援している。また、長年培った人と上手く付き合う力、助け合う力、かばい合う力、調整力を発揮できるような支え合いを引き出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方にも、利用者といっしょに遊びに行ったり、事業所の行事に来てもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者を良く観察、対話し、言葉、表情などからその真意を推し測ったり、思いや希望を把握するよう努めている。困難な場合は、別個に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご親族の面会時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞き、それを職員で共有し日々の介護に活かすよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を活用し、生活・心理面の視点やできないことよりできることに注目し、その人の全体像把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制をしき、センター方式を活かしながら、ご本人らしく生活できるような介護計画を全職員の関わりの中で立案している。また、ケアプランの見直し時にはご家族様の参加の上、ご意見をいただきながら、より良いプランニングにつなげている。当然、本人の要望も聞き重視している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の関わりの中で状態の変化や家族の新たなニーズを敏感に捉まえ、介護計画の見直しにつなげていくよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はそれぞれの業務開始前に、日々のご本人の食事、水分量、排泄など身体状況および言動の記録を確認し情報共有を徹底している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて、通院の送迎など必要な支援を行い、また、ドライブや遠出、見物、外食などの支援も行い、ご本人とご家族の満足度を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議での地元民生委員、自治会などの役員の参加など地域の人や場の力を借りた取り組みをしている。また、消防署員来苑により、消防指導を受けている。なお、老人会での交流、保育所での運動会参加、大正琴、日本舞踊、カラオケグループ、アコーディオン、などの訪問も受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の保育園の運動会に参加し、園児や保護者との交流を深めたり、地域のいも畑を提供していただき、いも掘りに出かけている。また、およそ月一回美容師さんに来苑していただき、希望者の調髪をしていただいている。ご本人が入居前に懇意にしている美容院への送迎を行うこともある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には法人内の地域包括支援センターや他地域包括支援センター職員の参加を得ており、これをきっかけに情報交換や意見交換を重ねるようになり、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に合わせた医療機関受診に応じている。また、ご家族の都合に合わせた通院介助に努めており、法人内の医師をはじめとして、他の医療機関からのセカンドオピニオンが得られる環境も整えている。(特に精神科医)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長である法人内医師は専門的見識が高く、診断や治療など認知症についての指示や助言を得ながら入居者との関わりをもっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の老健施設や母体医療機関に勤務する看護師や医療従事者とのなじみの関係が築かれており、利用者の普段の状態や持病等も熟知しており、密度の濃い連携体制がとれている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、かかりつけ医師により、病状についての提供を、また、介護スタッフからは、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、見舞いや面会を行いながら、家族とも情報交換しながら、側面から支援し、速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方など、重度化にかかる指針を作成しており、事業所の対応について、できるだけ早期から本人、家族、担当医を含め、ケア関係者と話し合いを繰り返し、対応方針の共有を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取り、安心して納得した最期が迎えられるように随時、ご本人やご家族の意思を確認しながら支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人がご家族の合意を得て、別の事業者へ移り住む際にはこれまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点など、おもにサマリーを通して情報提供を行い、これまでの暮らしの継続性が守られるよう連携し、最小限のダメージになるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。また、プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏えい防止を事業所全体で行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活において些細なことでも本人が自己決定できる場面を作っており、また、言葉がなくとも入居者個々の思いや意図を汲み取り、自分の意思で物事を決められるよう支えている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的で効率を考えた日課を排除し、利用者のペースを大切にし、買い物や散歩、調理や野菜作りなど、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自己決定が難しい入居者には、好みのピンやカチューシャを使い整髪するなど個性を活かした支援をしている。また、外出や行事などのときは、普段と違うおしゃれができるよう、一緒に服を選ぶなどの機会を作り支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買物と一緒に行き、下ごしらえ、盛り付けなど調理全般を利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にやっている。また、職員は入居者と同じテーブルで会話をしながら、食事が楽しい時間となるよう、支援している。後片付けも利用者と職員が一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒習慣のある人には1日の飲む量を本人と一緒に決めて毎日出している。おやつのは好みはそれぞれに違いがあり、従来からの嗜好に合わせたものをお出ししている。食材の買物に行ったときに、食べたいおやつがあったときには、購入してお出ししている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個々の排泄パターンや便意のサインを敏感に捉え、さりげなく、トイレ声かけ、誘導を行っている。定時のトイレ誘導対象者も定時にこだわらず、様子に応じて排泄介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせて入浴していただけるように毎日準備している。また、入浴時間帯は午前、午後を問わず、入りたい時刻に入浴を楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動量を増やし、夜間によく眠れるよう支援している。一人ひとりにとって自然なリズムが生まれるように、特に昼間の環境や生活の過ごし方、関わる側のあり方が本人のリズムを乱していないか十分確認するようにしている。朝までに目覚められても再び入眠していただけるよう時刻をお伝えしたり、リラックスしていただけるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや畑仕事、園芸、楽器演奏、カラオケなどの利用者の経験や役割、楽しみを發揮する場面を作っている。遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。また、四季折々の草花の見物や庭園へ出かけたり、阿波踊りや花火など季節行事の見物に出かけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金を事業所が管理している方でも、買い物時には現金をお渡しし、希望に応じた買物をしていただいている。支払いは混乱しないよう職員が声かけ見守りをし、できるだけご自分で支払うことができるよう支援している。また、ご自身で現金を所持保管している方もおられ、買い物の際には、ご自身でお金を使えるよう見守りしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望にそって日常的に、畑仕事、散歩、園芸、買い物など戸外に出かけている。また、季節を感じていただく為、積極的に外出行事を計画し実行している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出を企画立案している。阿波踊り見物、うずしお見物、bigひなまつり、花見など四季折々の風物詩を楽しんでいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知己者への電話の送受信介助を行ったり、遠方に住まわれていたり、時間がなく面会に来られないご家族とのつながりを大切にしよう努めている。また、ご本人への郵便物の取り次ぎを行ったり、内容をお伝えしたり、年賀状発送をされた方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間帯を特に定めておらず、ご家族や来苑者の都合の良い時間帯に来ていただけるように配慮している。また、ご本人と面会の方が気兼ねなく過ごせるよう居室にご案内したり、リビングの一角を使っただけよう心がけ、来苑者を自然な形で歓迎している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害について、また、介護保険法にある禁止対象となる具体的な行為について十分に理解しており、拘束のないケアを引き続き取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関および中間扉も施錠しておらず、自由に入出りできるようになっている。外に出られようとされる方には、それとなく同行し転倒に備えている。また、万が一の離設に備え、画像入りの離設者対応カードを作成し、離設マニュアルも作り、突発的にも対応できるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、最大限見守りのできる環境に身を置きながら、業務を進めており、本人のプライバシーに配慮しながら、さりげない態度で全入居者の様子察知に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ごく一般的な家庭の姿を重視し、必要な物品を不必要に片付けてしまわないよう心がけ、生活感のない住環境にならないよう配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒をはじめとして、調理中の切り傷や移動時の打撲など、受傷の大小に関係なく、ヒヤリハットも含め、速やかに事故報告書を作成し、原因と予防策の立案実施に取り組んでいる。また、月ごとの法人全体の事故検討会議に参加し、多面的に事故を分析し、積極的に対策を見出すよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の医師や看護師の迅速な協力を得られるよう緊急時の連絡体制を確立している。また、管理者を含む職員10名は消防本部主催の「普通救命救急講習Ⅰ」を修了している。また、全ての職員が応急手当に関する学習と訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議にて老人会、自治会、消防団と連携できている。また、消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなっても、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の安心感満足感を高め、むしろ行動の障害を少なくしていることを家族に見てもらおうなど、具体的な説明に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝行う、検温、脈拍、血圧測定をはじめとして、食事量や顔色、様子などを観察し、平生と違う様子に敏感であるよう努めており、変化があるときは速やかに医師に連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の目的、副作用、用法や用量について理解し、服薬時には本人に手渡すか口の中に入れ、確実に服薬できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を記録しており、排便の有無をつかんでいる。また、日頃から便秘にならないよう定時の水分補給を行ったり、朝食には必ず牛乳を飲んでいただいている。また、散歩や家事活動など身体を動かす機会を適度に設けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の清掃や歯磨きを奨励し、毎食後声かけを行っている。また、義歯は必要に応じて、除菌作用のある洗浄剤に浸し、清潔の保持に努めている。口腔ケアが虫歯、歯周病や誤嚥性肺炎の予防に効果があることを理解している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂食嚥下状態により、米飯、キザミ食、ミキサー食、トロミ入り汁などに食形態を変えている。また、食事量や水分摂取量は毎日記録している。カロリーの過不足や栄養の偏りなど、法人内の管理栄養士により、定期的に専門的アドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルを策定している。職員と同意いただいた利用者はインフルエンザ予防接種を受けている。地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買物で調達しており、買い置きは行わないようにしている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。調理器具は乾燥機で熱処理したり、塩素系の消毒剤で滅菌処理するなど衛生管理方法について取り決めがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の畑には花を植えたり、入り口には緑豊かな植栽を施している。また、屋外に出たときは小休止できるようベンチを置き、お茶を飲んだり自由に憩いの時間が取れるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって不快な音や光が入らないよう共用空間を調べ、普通の家庭の姿からかけ離れないようにしながら、居心地の良さや活気ある生活ができるよう配慮している。共用空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は花を飾り、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、茶碗を洗う音やご飯の炊けるにおい、利用者の弾くオルガンの音など生活感や季節感を意識的に取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内には、リビング、廊下ベンチが設えられており、一人にも二人きりにもなれるような場所を備えてある。また、リビングには二人がけと三人がけのソファを置いてあり、気の合う人同士が語り合える居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、個々人が使い慣れた家具やキーボード、家族やご自分の思い出のアルバムが持ち込まれていたり、人形、マスコット、置物、パズルなどが飾られている。また、据え付けのベッドや床頭台を個人の好みに合わせた配置にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との換気に努め、空気のよどみや臭気がこもらないよう毎朝夕30分、施設全体を換気している。また、トイレや玄関先には消臭剤を置き、悪臭が漂わないよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流しの高さ、物干しの高さ、洗面所の高さが利用者が作業しやすく、利用しやすいように整えており、廊下、浴室、トイレの手すりも安全確保と自立への配慮の視点の上で生活環境を整えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの入り口には、混乱や失敗を招かないよう『便所』と大きく表示しており、居室を間違える方には居室入り口に氏名を表示し、ご本人の不安材料を取り除く配慮をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草花を育てたり、野菜を作ることができるよう畑となる場所を2箇所確保している。また玄関先にはベンチを設置したり、館内にはサンルームを備えていたり、南側の芝生の庭にはテーブルと椅子も置いてあり、休憩できるようになっており、思い思いの時間を過ごしていただけるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)